

習得しやすい 日本語複合動詞とは何か？

— 香港人中上級日本語学習者の習得
及び使用実態予備調査を通して

何志明

✦要旨

本稿は習得しやすい複合動詞にはどのような特徴があるかを調べるために、香港の日本語学習者の複合動詞習得及び使用実態を予備調査で検証した。その結果、次のことが分かった。1. 前項動詞か後項動詞のいずれか、または両方ともが、自立語として独立して使われる時と比べ、異なる意味を示す複合動詞は習得しにくい。2. 学習者は中国語の影響で不適切な複合動詞を作る傾向が見られる。3. 学習者は不適切な複合動詞を判別する能力が低い。

✦キーワード

複合動詞、習得、使用実態、中国語、正答率

✦ABSTRACT

This paper examines the acquisition and usage of Japanese compound verbs of Hong Kong intermediate and advanced Japanese language learners. The acquisition problem of compound verbs is often covered by various previous studies, but effective pedagogical methods are less proposed. This preliminary study examines what kinds of compound verbs are comparatively easy to learn. Hong Kong learners experienced the following difficulties: 1. They have difficulty learning compound verbs consisted of V1 and V2 in which the meaning of both or either one of the two verbs varies from using independently to using in the form of compound verbs. 2. They tend to create unidiomatic compound verbs due to the influence of their first language (Chinese). 3. The ability to distinguish unidiomatic compound verbs is low.

✦KEY WORDS

Compound verb, Acquisition, Usage, Chinese language, Percentage of correct answer

What Kinds of Japanese
Compound Verbs are Easy to Learn?
A preliminary study of the acquisition and usage
through examination of Hong Kong intermediate and
advanced Japanese language learners

HO CHI MING

1 はじめに

日本語学習者にとって、複合動詞は習得が難しいものの1つであると言われている。学習者の意見及び筆者やほかの日本語教師の経験では、例えば、「(昼御飯を) 食べ始める」や「(スイッチを) 押し続ける」のような動作の時間的局面を示す組み合わせと、「(携帯電話を) 取り出す」や「焼け死ぬ」のように動詞の原義が保たれている前項動詞 (V1) と後項動詞 (V2) を持つ組み合わせの場合は比較的間違いが少ない。一方、「(人員削減に) 踏み切る」や「(改革に) 乗り出す」のようにV1かV2 (または両方) の動詞の原義が保たれていない組み合わせの場合は比較的間違いが多いと言われている。つまり、同じ「動詞+動詞」の形をしている複合動詞でも間違いやすいものとそうでないものがあるようである。間違いやすい組み合わせとそうではない組み合わせはどのようなものを把握するために、上記の筆者による観察の妥当性を検証する必要がある。また、限られた授業時間の中で膨大な数を有する複合動詞をすべて学習者に教えるのは非常に難しいだろう。複合動詞のタイプとその習得しやすい順を考えることによって、より効果的に学習できるのではないだろうか。学習者が複合動詞の仕組みを理解する際に生じる問題は、早急に解決すべき課題の1つとして考えられる。本稿は、学習者の複合動詞の習得及び使用実態を調査し、比較的間違いやすい複合動詞と間違いにくい複合動詞の特徴を明らかにする。

2 先行研究と本稿の目的

2.1 先行研究

学習者は複合動詞のどのようなところが難しいと感じているのだろうか。松田 (2004: 2) では、「複合動詞の結合条件」、「単純動詞と複合動詞の使い分け」、「習得方法」の3点が学習者にとって習得の困難点であると述べている。確かに松田の指摘通り、複合動詞のV1とV2が持つ統語的特徴 (影山 1993, 1999; 松本 1998) ^[註1] と意味的特徴 (姫野 1999; 何 2001, 2002a, 2002b, 2002c) ^[註2] により、複合動詞

の構造は複雑で容易に理解できるものではない。これが習得の難しさにつながる原因と思われる。複合動詞の結合条件と習得の関係を示す研究はこれまであまり行われていないので、具体的に学習者が間違えやすい複合動詞にどのような特徴があるかについては不明な点がまだ多く残っている。近年の複合動詞の習得研究として、松田 (2004) と陳 (2007) が取り上げられる。松田 (2004) は認知意味論の立場を援用した「〜こむ」の意味分析を行い、「〜こむ」の多義的語義全体を包容するような共通の図式 (「コア図式」) で表すことを提案している。陳 (2007) は、学習者コーパスと日本語母語話者コーパスの比較調査を通して学習者と日本人の複合動詞の使用状況について考察した。松田の研究はある特定のV2「こむ」の意味的特徴を解明し、陳の研究は頻繁に使われる複合動詞において、日本語母語話者と学習者の間にどのような違いが出ているかを考察した。が、これらの研究は習得上の問題の一部に関してしか考察を行っていないので、まだ複合動詞の習得問題の全体像を把握することができたとはいえない。さらに、田中 (1996, 2004) の指摘通り、複合動詞は日本語の教科書の学習項目としてほとんど取り上げられていないため、教科書分析を行っても使用実態が解明できない。今後、複合動詞の教案や教材作りのために複合動詞全般の誤用と習得について概観する基礎研究が必要となる。

2.2 本稿の目的

本研究では、今までの先行研究では実施していなかった学習者の複合動詞全体の習得に注目し、学習者が複合動詞をどれくらい理解しているかをアンケート調査で調べ、複合動詞の理解及び使用実態を検証した。

3 なぜ学習者にとって複合動詞の組み合わせが難しいのか

松田 (2004) の指摘通り、かつて学習者であった筆者も複合動詞を学ぶ際、「複合動詞の結合条件」、「単純動詞と複合動詞の使い分け」について困難を感じていた。では、なぜ学習者にとって複合動詞の組み合わせが難しいのか、学習者の立場に立って考えてみよう。

複合動詞は前項動詞V1と後項動詞V2の2つの動詞が結合したものであり、V1

とV2の間に何らかの意味的な関係がある。例えば、「花子はハンドバッグから携帯電話を取り出した。」の場合、花子は取るという手段で携帯電話をハンドバッグから出すことを意味する。また、「太郎は火事で焼け死んだ。」の場合、太郎は焼けることが原因で死んだことを意味する。しかも、「(携帯電話を) 取り出す」と「焼け死ぬ」のような複合動詞のV1とV2はそれぞれの単独動詞「取る」、「出す」、「焼ける」、「死ぬ」のもとの意味を保持している。このように「単独動詞V1の意味」+「単独動詞V2の意味」=「複合動詞V1+V2の意味」(以下、「★」で表す)であるなら、学習者にとって複合動詞の仕組みはそれほど難しくはないはずである。だが、例えば、「不景気で社長は人員削減に踏み切った。」の場合、単独動詞「踏む」の意味と単独動詞「切る」の意味からは複合動詞「踏み切る」の意味が推測できない。学習者は複合動詞の意味を理解するために単独動詞の意味を手がかりにする方法を取っているので、「踏み切る」のような複合動詞の場合、単独動詞と複合動詞の意味を示す「★」のような関係が成立しない限り、学習者はどのように複合動詞を理解したらよいか分からなくなってしまふ。学習者の立場に立って推測してみると、複合動詞を習得する際、単独動詞と複合動詞の関係を示す「★」が成立する場合(「取り出す」など)と成立しない場合(「踏み切る」など)に習得しやすさの差が現れると考えられる。

4 本研究における複合動詞の分類

本稿では、学習者にとって「取り出す」と「焼け死ぬ」のようなV1とV2がそれぞれの単独動詞「取る」、「出す」、「焼ける」、「死ぬ」のもとの意味を保持している組み合わせが理解しやすく、逆に「踏み切る」のようなV1とV2がそれぞれの単独動詞「踏む」、「切る」のもとの意味を保持していない組み合わせが理解しにくいという仮説を立て、この仮説が成立するかどうかを検証する。本研究では単独動詞と複合動詞の意味を考える際、V1とV2がそれぞれ具体的な意味(すなわち、単独動詞である場合、動詞の原義が保たれており、意味的な派生や転義が発生しないこと)を示すかどうかという観点からV1とV2になる動詞を分類した。なぜなら、V1(V2)が具体的な意味を示すかどうかということは、学習者がこれらの複合動詞の意味を理解する際、分かりやすい基準の1つになると考

えるからである。

本研究における複合動詞の分類は次のようになる。V1とV2の結合において、語の形態的緊密性(影山1999:7)の側面から見ると、V2がアスペクトを示す複合動詞は、V2がアスペクトを示さない複合動詞と比べ、V1との結合の自由度が大きい。その性質上の違いから学習者の両者の使用状況に差が発生するのではないかと予測されるので、まずこの2種類の複合動詞を分類する。次に、V2がアスペクトを示さない複合動詞でも、V1(V2)が具体的な意味を示すかどうかによって、複合動詞全体の意味が変わってくる。その場合、学習者がV1(V2)本来の意味のままで複合動詞全体の意味を理解してしまうという誤りが発生する可能性が出てくる。上記の条件を踏まえた結果、本研究では単独動詞としてのV1、V2と、複合動詞V1+V2の意味の違いによって、複合動詞を4タイプに分類した。

【V2がアスペクトを示すもの(タイプ①)】:

タイプ①: V2がアスペクトを示す(例: 書き続ける、持ち始める)

【V2がアスペクトを示さないもの(タイプ②~④)】:

タイプ②: V1もV2も具体的な意味を示す(例: 取り出す、持ち上げる)

タイプ③: V1またはV2が具体的な意味を示さず、補助的な役割を果たす(例: 突き付ける、言い渡す)

タイプ④: V1もV2も具体的な意味を示さない(例: 踏み切る、打ち出す)

本研究に先立ち、筆者は朝日新聞日刊国際衛星版(2006年1月1日~31日、2月20日の分)の全紙面(広告を除く)で複合動詞の使用について調査した。調査期間内の新聞記事の内容に出てきた複合動詞の異なり語数は1,175語である。これらの中から次の基準でアンケート調査の対象語を選出した。まず、この1,175語の複合動詞の出現頻度を記録し、出現頻度の最も高い5%(約60語)を候補として選び出した。さらに、これらの候補語を出現頻度の高い順に並べ、それらのV1(V2)が具体的な意味を示すかどうかという基準でタイプ①~④に分類し、出現頻度の最も高い5語を選び出した。しかし、実際の選出作業には次のような問題が発生した。第一に、必ずしも各タイプにわたって均等に分布している

とはかぎらない。第二に、アスペクトを示すタイプ①の複合動詞は候補の60語にはまったく含まれていなかった。そのため、筆者は次のような修正を行った。全1,175語の複合動詞から最も出現頻度の高いタイプ①の例を3つ選出した(開始の「～始める」、継続の「～続ける」、完了の「～終わる」)。一方、タイプ②の例の場合、比較的使用頻度の高いものが多いため、8つ選び出している。タイプ③と④の例も同様な方法で5つずつ選び出した。以上の基準で表1の中にある4タイプ、計21個の複合動詞を選び出した。

5 調査方法

5.1 調査対象者

調査時(2006年7月～12月)、香港中文大学で日本語を専攻している学部生または日本語教育を専攻している大学院生35名である。対象者の内訳を表2に示す。

5.2 調査手続・集計方法

調査は事前に筆者への協力を承諾した学習者にアンケート用紙を記入してもらう方法で行われた(調査は無記名)。辞書類は使用禁止である。筆者は回収したアンケート用紙を調べ、回答を全部記録し、各問題の正答率を算出した。

5.3 調査内容

本アンケート調査は、第1部の産出レベル問題と第2部の理解レベル問題によって構成されている。産出レベル問題は「複合動詞を知っているか」をチェックする翻訳問題である(表3の間1～21)。各問題は例(1)のように調査に使用した朝日新聞の記事から表3の複合動詞が入っている部分を抜粋した文である。

- (1) 問8: 昨秋、岐阜県揖斐川(いびがわ)町で、団塊世代による「団塊サミット」が開かれた。ほんとうの故郷に限らず、住み慣れた第二の故郷などににぎわいを挽回(取り戻す)には、どうしたらいいか。そ

表1 本アンケート調査で使った複合動詞の分類

タイプ	アンケート調査で使った複合動詞
タイプ①:	書き続ける、持ち始める、書き終える
タイプ②:	取り出す、持ち上げる、受け入れる、取り入れる、取り戻す、受け取る、取り上げる、焼き殺す
タイプ③:	持ち込む、話し合う、突き付ける、引き下げる、言い渡す
タイプ④:	繰り返す、打ち出す、乗り出す、踏み切る、取り組む

表2 調査対象者の内訳

性別	男性:7名、女性:28名
年齢	20代:29名、30代:5名、40代:1名
母語	広東語:33名、北京語:1名、広東語と北京語両方:1名
日本語学習状況	学部で日本語を学習中または大学院で日本語教育を専攻
日本留学経験	なし:6名、1年未満:8名、約1年:12名、1年～2年未満:7名、2年～3年未満:2名
日本語証書所持	1級合格:20名、2級合格:10名、1・2級合格:2名

んな議論に加わろうと、さまざまな職業の140人が全国から集まった。

(朝日新聞日刊3面2006年1月5日(木))

回答者に、その文を読んで、下線の部分にある中国語(標準語である北京語)を日本語の複合動詞に書き換えてもらう^[註3]。上記の例の中で、括弧内の日本語複合動詞が答えである。回答者がその中国語の意味に合っている複合動詞を知っているかどうかをチェックするのが主な目的なので、複合動詞の語幹だけでも正しく書いていけば正解扱いにする。分析の便宜上、活用語尾に間違いがあっても問題にしないことを断っておきたい。

理解レベル問題は「複合動詞の意味を知っているか」をチェックする問題である(表3の間1～36)。各問題は例(2)のように回答者に問題の複合動詞が適切な組み合わせかどうかを判断してもらうものである。問題の下線にある中国語は模範解答である。

(2) 問30 焼き捨てる (やきすてる): 焼丟／焼掉

問33 潰し捨てる (つぶすてる): wrong

適切な組み合わせの場合は、その意味を回答者にとって一番使いやすい言葉で記入してもらい、そうでない場合は、“wrong”と記入してもらった。出題した問題は、朝日新聞から抽出した複合動詞(問1～21)と筆者(何2002b)が作った複合動詞(問題22～36)の2種類である。

表3 本アンケート調査に使用したすべての複合動詞の内訳

問題番号／タイプ (第1・2部共通)	複合動詞	問題番号／タイプ (第2部のみ)	複合動詞
1／①	書き続ける	22／②	叩き壊す
2／①	持ち始める	23	*落とし壊す
3／①	書き終える	24／②	殴り殺す
4／②	取り出す	25	*落とし殺す
5／②	持ち上げる	26／②	勝ち取る
6／②	受け入れる	27	*走り取る
7／②	取り入れる	28／②	奪い取る
8／②	取り戻す	29	*倒し取る
9／②	受け取る	30／②	焼き捨てる
10／②	取り上げる	31／②	切り捨てる
11／②	焼き殺す	32	*碎き捨てる
12／③	持ち込む	33	*潰し捨てる
13／③	話し合う	34	*割り捨てる
14／③	突き付ける	35／②	切り倒す
15／③	引き下げる	36	*壊し倒す
16／③	言い渡す		
17／④	繰り返す		
18／④	打ち出す		
19／④	乗り出す		
20／④	踏み切る		
21／④	取り組む		

被験者が複合動詞の意味を知っているかどうかを確認するために、学習者に「a. 適切な組み合わせならその意味を書き出す(意味確認)」と「b. 不適切な組み合わせならきちんとそれが不適切であることを判別する(正誤判別)」という2つのタスクを行ってもらった。問1～21、22、24、26、28、30、31、35の複合動詞が意味確認の問題(これらの組み合わせはすべて実在の組み合わせ)、問23、25、27、29、32、33、34、36の複合動詞が正誤判断の問題にあたる(これらの組み合わせはすべて筆者が作った架空のもの)。問22、24、26、28、30、31、35の実在の組み合わせ(7個)と問23、25、27、29、32、33、34、36の架空の組み合わせ(8個)の関係は次の通りである。例えば、問22の「叩き壊す」のV1を「落とす」に変え、問23の「*落とし壊す」にしている(以下同様、問24→問25、問26→問27、問28→問29、問30、31→問32～34、問35→問36)。何(2002b: 12)では、複合動詞における適切な組み合わせを作る先行研究の基準で適切な組み合わせは当然作れるが、実際には不適切な組み合わせまで作ってしまう恐れがあると指摘している。学習者は複合動詞の結合条件について先行研究の基準で過剰に一般化した結果、間違った組み合わせを作る可能性がある。学習者がどれぐらい複合動詞を理解しているかについては、適切な組み合わせだけでなく、不適切な組み合わせもきちんと判別する力を持っているかどうかを調べなければならない。したがって、本研究では、「意味確認」と「正誤判別」の両方を実施した。

では、どのような過剰一般化が考えられるのだろうか。まず「手段」の複合動詞の例で先行研究の基準を見よう。「手段」の複合動詞におけるV1とV2については、次のような指摘がある。

- (3) 前項動詞はすべて動作主的動詞^[RE4]で、後項動詞は何らかの状態／位置変化の使役^[RE5]を表す動詞である。…(中略)…「手段」の複合動詞と考えられるものはすべて、いわゆる他動詞／非能格自動詞同士の組み合わせとなる。(松本1998: 52)
- (4) すべての組み合わせに対し、前項動詞は非能格自動詞または他動詞であり、しかも、前項動詞と後項動詞の動作主は同じである。

(Matsumoto 1996: 213)

何(2002b)は、(3)と(4)のような先行研究の基準に基づくと、次の(5)～(9)のような組み合わせを作ることができると指摘している。

- (5) 勝ち取る(問26) [※(*金メダルを) 勝つ、金メダルを取る]
 太郎が全国大会で金メダルを勝ち取った。(何2002b: 12)
- (6) *走り取る(問27) [※(*金メダルを) 走る、金メダルを取る]
 *太郎がマラソン大会で金メダルを走り取る。
 (「走るという手段で金メダルを取る」という意味に取れない) (何2002b: 12)
- (7) 切り倒す(問35)、切り捨てる(問31)、焼き捨てる(問30) (何2002b: 12)
- (8) a *碎き捨てる(問32): *太郎がそのコップを碎き捨てた。
 b *潰し捨てる(問33): *太郎がそのアルミ缶を潰し捨てた。
 c *割り捨てる(問34): *太郎がその花瓶を割り捨てた。
 d *壊し倒す(問36): *太郎がその電気スタンドを壊し倒した。
 (何2002b: 12)
- (9) a *落とし壊す(問23): *太郎が時計を(床に)落とし壊した。
 b *落とし殺す(問25): *犯人が人質の赤ん坊を(床に)落とし殺した。
 (何2002b: 12)

適切な組み合わせ(問22、24、26、28、30、31、35)として選んだのは、新聞調査では使用頻度が高いものではないが、理解語彙として使われているものであると考えられる。さらに、V1もV2も具体的な意味を示すもの(タイプ②)で、学習者にとって理解しやすいタイプであると推測される。これらの組み合わせを広東語または北京語に訳した場合、日本語の組み合わせと比べても形態上まったく同じ(例えば、問22の「叩き壊す」=「打爛」、問26の「勝ち取る」=「贏取」、または極めて類似する特徴(例えば、問24の「殴り殺す」=「打死」、問30の「焼き捨てる」=「燒掉」)がある。これらは、香港出身の学習者には理解しやすいと推測できる。一方、適切な組み合わせのV1を変更して作られた不適切な組み合わせの場合、日本語の語彙としては使用されないが、広東語または北京語に直訳すると使われるものがある(例えば、問23の「落とし壊す」=「跌爛」、問25の「落とし殺す」=「跌死」)。さらに、V2の「手段」を示すV1を変えることによって新

たな組み合わせが作れる複合動詞の高い生産性を生かし、意味上共通している点を持つV1同士を変えるだけで(例えば、物を破壊するという意味を表す動詞:「焼く」→「碎く」)作られた組み合わせ同士は適切なものも不適切なものもある(例えば、問30の「焼き捨てる」→問32の「*碎き捨てる」)。筆者は自らが日本語を学習した際に、それらについて疑問を抱いた経験があり、なぜ意味的に共通点を持つ動詞なのに不適切な組み合わせになってしまうか理解できなかった。すなわち、香港の学習者の視点から見れば、「焼き捨てる」も「*碎き捨てる」も適切な組み合わせになってもおかしくないのである。筆者はこれらの不適切な組み合わせ(問23、25、27、29、32～34、36)を意図的に作り、本アンケートの回答者が不適切な組み合わせを認識できるかどうか調べた。

6 アンケート調査の結果

アンケート調査の結果により、本研究の被験者の複合動詞の正答率が明らかになった(表4a、4b)。まず正答率の高い順から見ると(表4aを参照)、第1部の場合は:タイプ①→③②→④になり、第2部の場合は:タイプ①→②→③→④になる。第1部においてはタイプ③の正答率はわずかにタイプ②を超えたが、ほとんど変わらない。しかし、第2部においてはその差が広がっている。また、全体的には、第2部の理解レベル問題は第1部の産出レベル問題より正答率が高い。次に各部の詳しい結果を見てみよう。

表4a 問1-21の調査結果

問題番号	タイプ	第1部の正答率の平均値	第2部の正答率の平均値
1-3	①	71.43%	84.76%
4-11	②	33.21%	66.43%
12-16	③	34.86%	45.71%
17-21	④	20.00%	37.14%
全体		35.92%	57.14%

6.1 第1部

問1～21における学習者の正答率が最も高いのはタイプ①の複合動詞である(問3の「書き終える」の場合は91.43%、問1の「書き続ける」の場合は71.43%、問2の「持ち始める」の場合は51.43%である)。次に、タイプ②の複合動詞の正答率は問4の「取り出す」を除いて、すべて35%未満である(例えば、問6の「受け入れる」の場合は34.29%、問11の「焼き殺す」の場合は31.43%)。最後にタイプ③と④の正答率は全体的にタイプ①と②より低い結果が得られた(例えば、問14の「突き付ける」の場合は5.71%、問19の「乗り出す」の場合は8.57%しかない)。

6.2 第2部

問1～21における第2部の結果は第1部と似た傾向が見られる。タイプ①の複合動詞は正答率が高いが(問1の「書き続ける」の場合は94.29%、問3の「書き終える」の場合は82.86%、問2の「持ち始める」の場合は77.14%である)、タイプ③とタイプ④の複合動詞は正答率が低い(例えば、問14の「突き付ける」も問19の「乗り出す」も5.71%しかない)。しかし、タイプ②の複合動詞の正答率は第1部より大幅に上昇した(例えば、問4の「取り出す」の場合は100%、問6の「受け入れる」の場合は91.43%、問11の「焼き殺す」の場合は85.71%、問9の「受け取る」の場合は68.57%である)。さらに、全体的にどのタイプの複合動詞においても第1部より正答率が高い。しかし、問22～36の場合(表4bを参照)、何(2002b)の指摘通り多くの学習者は筆者が意図的に作った不適切な組み合わせを誤りであると認識することができなかった(例えば、正答率は問25の「*落とし殺す」の場合は37.14%、問36の「*壊し倒す」の場合は28.57%、問32の「*砕き捨てる」の場合は14.29%しかない)。不適切な複合動詞に対する学習者の理解力及び判別力はまだ足りないと考えられる。

7 考察

本アンケート調査を通して、比較的間違いが多いタイプの複合動詞と少ないタイプの複合動詞が明らかになった。香港の日本語学習者にとって、タイプ①の組み合わせが最も正答率が高いので、習得しやすいと思われる。逆に、タイ

表4b 問22-36の調査結果

問題番号	タイプ	複合動詞	第2部の正答率 (%)
22	②	叩き壊す	57.14
23		*落とし壊す	14.29
24	②	殴り殺す	74.29
25		*落とし殺す	37.14
26	②	勝ち取る	54.29
27		*走り取る	34.29
28	②	奪い取る	74.29
29		*倒し取る	28.57
30	②	焼き捨てる	37.14
31	②	切り捨てる	34.29
32		*砕き捨てる	14.29
33		*潰し捨てる	17.14
34		*割り捨てる	17.14
35	②	切り倒す	20.00
36		*壊し倒す	28.57

プ③と④の場合、正答率が低いため、習得しにくいと思われる。タイプ②の習得の難しさはタイプ①と③④の間にあるといえるだろう。さらに、習得の難易度のほかに被験者の誤用例の分析を通して下記のような複合動詞全体の習得問題が明らかになった。

1. 中国語からの影響と類似した複合動詞の混同
2. 和語・漢語の語彙
3. 中国語動詞の意識
4. 無回答

7.1 中国語からの影響と類似した複合動詞の混同

表5は第1部の回答から正解率が低いもの（正解率が35%未満）を中心に誤用が多く発生した例を取り上げて分析した結果である。

学習者は複合動詞を産出する際、中国語の影響を受けていると思われる誤用が見られる。例えば、問7の「資金を取り入れる」の場合、「取り入れる」の代わりに「吸い込む」と書いた回答者が35人中5人、「吸い取る」と書いた回答者が2人いた。中国語のヒントとなる「吸収」「吸取」は確かに「吸い取る」という意味を示すが、問題文の文脈から考えると、「資金を吸い取る」という表現は不自然なものとなる。また、問11の「兄弟3人が焼き殺された」の場合、「焼き死ぬ」と書いた回答者が4人いた。中国語の「焼死」の場合は日本語で「焼き死ぬ」ではなく、「焼き殺す」にしなければならない。学習者は単に中国語の語形成の法則に従って日本語の複合動詞を作り出しただけと思われる。誤用例の中には、学習者が自ら中国語の語彙からの知識で作上げた、誤った複合動詞も多く含まれている。例えば、問9の「薬を受け取る」を、「取り受ける」(2)、「取りもろう」(1)、「取り得る」(1)、「取りできる」(2)と記入してしまった例がある（括弧内の数字は回答者の人数を示す。以下同様）。

もう一つ学習者の誤用は似た複合動詞や形の上で同じV1かV2を持っている複合動詞による混同である。例えば、問10の「問題を取り上げる」の場合、「打ち出す」(4)、「上げ出す」(1)、「言い出す」(2)、「打ち出す」(1)、「取り出す」(5)のような誤用例がある。学習者はこれらの複合動詞の意味を「取り上げる」と混同してしまう可能性が考えられる。また、問5の「人を持ち上げる」の場合、「見上げる」(1)、「押し上げる」(1)、「取り上げる」(1)のような誤用例がある。

7.2 和語・漢語の語彙の代用

学習者は適切な複合動詞が分からない場合、自分の知っている語彙からの知識で和語あるいは漢語の語彙を作り出す例が見られる。表6のように和語・漢語を産出した現象は多くないが、正答率が低い例を中心に発生している。

表5 第1部の学習者の誤答例の一部抜粋

問題	タイプ	複合動詞	中国語訳（問題）	学習者の誤答例
1	①	書き続けたい	想繼續寫	書き続きたい
2	①	持ち始めて	開始擁有	結び始めて、有り始める
6	②	受け入れる	接收	取り受ける、取りもらった
7	②	取り入れる 引き出す	吸收／吸取	取り込む、とりはいた
9	②	受け取れる	能夠領取	取りできる、取りもらえる、もらええる
10	②	取り上げる	提出來	取り出した、上げだす、持ち出す
11	②	焼き殺された	被燒死	焼き死んだ、やきすなさせた
16	③	言い渡した	宣告	し出す、申し合う、発表する
19	④	乗り出す	出面／出頭	示め出す、見直す
21	④	取り組む	致力於	力を尽くす、没頭します

※太字の複合動詞：新聞で使われた形（問題の正解）、斜体の複合動詞：文脈から考えると正解になるもの

表6 和語・漢語の誤用例（括弧内の数字は回答者の人数を示す）

問題番号／タイプ	模範解答	学習者の回答
問7／②	(資金を) 取り入れる、引き出す	もろう (1)、吸取する (1)
問10／②	(問題を) 取り上げる	出す (1)、提出する (1)
問11／②	焼き殺された	焼かれる (1)、焼けられた (1)
問16／③	(判決を) 言い渡した	宣告する (2)、発表する (1)
問18／④	打ち出した	提出する (1)
問20／④	踏み切った	決意する (2)
問21／④	取り組む	果たす (1)、没頭する (1)

7.3 中国語動詞の意識

タイプ③と④の場合、V1とV2から複合動詞の意味を推測しにくいいため、学習者は容易に複合動詞を産出できないと思われる。学習者の回答から表7のようなヒントとなる中国語動詞の意識が多く見られる。

7.4 無回答率

上記の7.1から7.3の誤用例以外に、実は多くの学習者は無回答を選択した。無回答率の高い問題及びそのパーセントは表8に示されている。表8の結果からタイプ③と④の複合動詞の無回答率が高い（つまり、習得しにくい）ということ、本研究の仮説と合致している。

表7 複合動詞の意識例（括弧内の数字は回答者の人数を示す）

問題番号／タイプ	模範解答	学習者の回答
問11／②	焼き殺された	火に焼かれた（1）
問12／③	持ち込んだ	持ってくる／持ってきた（6）
問14／③	突きつけた	強く脅す態度出し上げ（1）、 頑固な態度で提出する（1）
問20／④	踏み切った	決心をつけて（1）
問21／④	取り組む	力を尽くす（1）、力を入れる（1）、 気を尽くす（1）

表8 無回答率の高い問題

問題番号／タイプ	模範解答	無回答を選択した学習者の数（%）
問19／④	乗り出す	27（77.14%）
問14／③	突きつける	24（68.57%）
問5／②	持ち上げる	20（57.14%）
問16／③	言い渡す	20（57.14%）
問21／④	取り組む	20（57.14%）

8 まどめ及び今後の課題

本稿は、先行研究ではあまり言及されてこなかったところに焦点を当て、新聞から収集した複合動詞例を取り出し、それに基づいてアンケートを作り、香港の日本語学習者の理解及び使用実態を調査した。その結果、香港の学習者にとって難しい複合動詞にはどのようなものがあるかを探り出したのみならず、習得の難易度も特定することができた。しかし、本研究には課題がまだ残されている。まず、本研究は学習者の複合動詞の習得問題と使用実態の全体像を把握するための予備調査であるため、問題に使用された複合動詞が学習者にとって既習語彙であるかどうかの調査は行われていなかった。次に、調査対象者の人数と調査対象の複合動詞の数が少ない。複合動詞の習得の全体像をつかむため、調査対象者の人数と複合動詞の数を増やし、レベル別の対象者に本調査を実施する必要がある。本アンケート調査ではまだ解明されていない学習者の複合動詞の誤用と母語による影響についても検証を行っていききたい。

〈香港中文大学〉

注

- [注1] …… 影山（1993,1999）は複合動詞を「語彙的複合動詞」と「統語的複合動詞」の2種類に分け、それぞれの組み合わせの特徴について考察を行った。松本（1998）は語彙的複合動詞の成立に関して、影山が主張している「他動性調和の原則」より緩い「主語一致の原則」を提案している。
- [注2] …… 姫野（1999）は「～つく」、「～つける」、「～あがる」、「～あげる」などの多義的な後項動詞の意味と用法を整理・分類し、それらの類義語間の意味的な相違の考察を行った。何（2001,2002a,2002b,2002c）は語形成及び動詞の意味の観点から動詞が持つ意味的な特徴に着目し、それぞれ原因、手段、様態・付帯状況、並列関係の語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞になることのできる動詞はどのようなものかについて考察を行った。
- [注3] …… 香港及び中国華南地域で使われている広東語は話し言葉で、書き言葉ではない。広東語話者にとって、書き言葉は北京語である。北京語であれば、広東語話者にも北京語話者にも問題なく理解できるため、アンケートを北京語で

作成することにした。

[注4] …… 動作主的動詞とは意志的動作を表す動詞のことを指す。

[注5] …… 状態／位置変化の使役は状態や位置変化を引き起こす意志的動作を示すことである。

参考文献

- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
- 影山太郎 (1999) 『形態論と意味』 くろしお出版
- 何志明 (2001) 「日本語の語彙的複合動詞における「原因」の複合動詞の組み合わせ」『筑波応用言語学研究』 8, pp.1-14.
- 何志明 (2002a) 「「様態・付帯状況」の複合動詞の組み合わせ」『日本語と日本文学』 35, pp.31-48.
- 何志明 (2002b) 「日本語の語彙的複合動詞における「手段」の複合動詞の組み合わせ」『日本語教育』 115, pp.11-20.
- 何志明 (2002c) 「日本語の語彙的複合動詞における「並列関係」の複合動詞の組み合わせ」『言語学論叢』 21, pp.39-59.
- 何志明 (2010) 『現代日本語における複合動詞の組み合わせ—日本語教育の観点から』 笠間書院
- 田中衛子 (1996) 「複合動詞—日本語学習者の教育項目として」『名古屋大学 日本語・日本文化論集』 4, pp.83-100.
- 田中衛子 (2004) 「類義複合動詞の用法一考—日本語教育の視点から」『愛知大学語学教育研究室紀要 言語と文化』 10, pp.63-79.
- 陳曦 (2007) 「学習者と母語話者における日本語複合動詞の使用状況の比較—コーパスによるアプローチ」『日本語科学』 22, pp.79-99.
- 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』 ひつじ書房
- 松田文子 (2004) 『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して』 ひつじ書房
- 松本曜 (1998) 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』 114, pp.37-83.
- Matsumoto, Y. (1996) *Complex Predicates in Japanese: A Syntactic and Semantic Study of the Notion 'Word'*. Tokyo: CSLI Publications.